

5月17日に長野県の鬼無里（きなさ）という地区に出かけました。長野県でも北部で白馬村の東隣に位置します。さらに東には戸隠連峯が近いという場所です。長野県が明治百年記念事業として、長野県の代表的な優れた大自然を末永く保護し、自然を探勝できるように開設した自然園です。

今回の目的は奥に連なる奥裾花自然園の①ミズバショウ観察と、②裾花川源流の溪谷には鬼無里が日本海につながる海の底だったことを示す地層と岩盤の野外博物館を見ること。信州の大地の生い立ちを実感できるとの情報を得ていたからです。さらに③雪解けとともに訪れる芽吹き美しいブナ林を散策してみたいと思ったからです。

①ミズバショウ（サトイモ科）

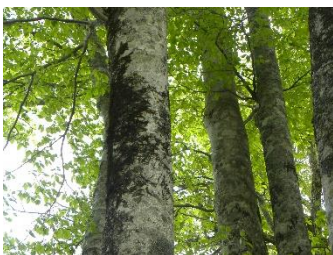
山奥に春の訪れを知らせるミズバショウの大群落は81万本もあり日本一。雪解け水が流れ込む清らかな湿原に清楚な白い苞を開き、訪れた人々を魅了します。ちょうど開花の盛りにどんぴしゃりでした。この群生は昭和39年に発見されたとのこと。

②奥裾花溪谷の地層

道路沿いには岩盤が張り出し、堆積岩に埋もれた化石から2000万年くらい前の海底であったといわれています。他では見たこともない地層の流れと景観は珍しいものでした。

③ブナの原生林について

- i ブナはブナ科ブナ属 別名：シロブナ cf：イヌブナのベツメイはクロブナ
- ii 標高の高い山地や寒冷地に生え、ミズナラと並んで山地林を代表する樹木で日本固有種です。
- iii 美しい幹や優雅な樹形で人気が高いだけでなく、自然界において重要な役割を果たしています。その姿から森の女王といわれます。
- iv 保水力が高く、ブナ林と呼ばれる純林を形成し、多雪地帯などの水源をかんようし、「緑のダム」と呼ばれます。
- v そばの実に似た果実は森の恵みで、ツキノワグマやニホンカモシカなど多くの生き物の栄養源となっています。
- vi 材は腐りやすく、狂いも大きくて使い道が無い木なのが「櫛」（ブナ）の名のいわれですが、現在では生物多様性を支える樹木として高く評価されています。曲げには適しており、家具の脚や太鼓類の胴として利用されるらしい。1933年に白神山地のブナ林が世界自然遺産として登録されました。
- vii 葉は縁に波形の鋸歯がある。互生。若い枝には褐色で光沢がある。雌雄同株。若葉には白い毛が密生。
- viii 葉の側脈は波の谷に向かって伸び、7～11本の側脈ガアリ「セブイレブン」と覚えるとよい。
- ix 幹は白みを帯びた灰色で、地衣類がついてまだらになるので見分けやすい。
- x 雌雄同株。花期は5月。雌花は上向きに咲くが、毛玉のような雄花はぶら下がる。風媒花



ブナの樹皮



芽出し



新葉



側脈と鋸歯の特徴



ブナの